
運

ワーグナー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
運

【Nコード】
N0994I

【作者名】
ワグナー

【あらすじ】
謎の時間……。目覚めた瞬間の恐怖……。一体ここは……。？

プロローグ

誰もが知っている運試し。

パチンコ、くじ引き、あみだ、ルーレットなど様々だ。

スリルがあつてとても良い。

一度すると、止められなくもの凄く楽しい。

しかし・・・。

今、史上最凶最悪の運試しが始まろうとしていた・・・。

第1話 時

「・・・。」

「・・・。」

「・・・。」

現在、俺達は賭けをしている。

どの球が出るかによって賞金が決まる運の勝負だ。

『26番!!』

「よっしゃー!!」

「ちえっ、またお前が当たったのかよ・・・。」

「つまんねえ。」

当たった山本輝義やまもと てるよしは興奮しながら賞金を受け取りに行った。

一方、俺おがた けんいち〔緒方健一〕と、小野明おの あきらはまたしても

ギャンブルに負けた。これで3連敗。

一万円も掛けていたのにこれじゃあ大損だ。

しばらくすると賞金3万5千円を手に入れた山本が戻ってきた。

「お前ら本当に運無いな!!」

「うるせえ!!」

・・・とは言ったものの、内心は悔しかった。

俺は4月で高校2年生になる。

俺達3人は、小・中・高と同じ高校。

3人とも成績ギリギリで高校2年生に進学出来た。

俺達は短い春休み中、ギャンブルに、はまっている。

すると、アナウンスが聞こえる。

『皆さん今日はS Pなギャンブルがあります!!』

その瞬間、客からは大きな歓声が聞こえた。

耳をふさいでも、はっきり聞こえるキーキー声で叫ぶ客達。

『では、地下1階へ来てください!!』

「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「」

続々と、客が地下に入っていく。

俺達、3人も地下へ向かう。

その時、緒方が入るのが最後だった。

すると、店のシャッターが閉まっている・・・。

どういうことだ・・・？

俺が地下に入ると店員が地下への入口を閉めた。

そして、地下へ降りていった。

この時、緒方達はまだ知らなかった。

これが地獄の始まりだったことを・・・。

第2話 謎の時間

全員が地下に入った所で司会者が挨拶をする。

「ようこそ、いらっしやいました!! それでは」

司会者が指がパチンと鳴らす。

すると、部屋が真っ暗になった。

ざわつく俺達。

・・・あれ？

意識が遠のいていく・・・。

・・・。。。。。。。。。。ん？

・・・ここは？どこだ？

Fと描かれた狭いコンクリートの部屋に俺を含め、10人が倒れて
いる。

その後、他の人々も目を覚めた。。

よく見ると小野と山本がいない。

どこに行ってしまったんだろう・・・。

「おいおい、どこだ！ここ！！」

赤い髪の男がそう言う。

「ざけんじゃねえぞ！！！」

長身で、短髪の男が言う。

「と、とにかく出ようぜ。」

そう言い、おとなしそうな少年がそう言う。

少年はドアノブに手をかける。しかし、押しても引いても開かない。

「チッ！」

そう言い、ドアを蹴った。

「閉じ込められた・・・。」

俺がそう言う。

「「「「「そんなあゝ！！！」」」」」」

女子5人組がそう叫んだ。

見た目中学生ぐらい。おそらく不良だろう。

5人組は泣き出してしまった。

すると、スピーカーから変な音がする。

「なんだ!？」

ハーフっぽい彼がそう言うのと全員がスピーカーに注目した。

『A～Zグループの皆さんこんにちはー!!』

A～Z……。つまり、1部屋10人。つまり、260人が店の中にいたのか……。

『SPゲームへようこそ!!』

……。さっきの奴の声だ。

『今からあなた達にはゲームをしてもらいます!!』

ゲーム？

『次の部屋に進んでください!!』

そう言うと、ドアの鍵がカチリと開いた。

1番近くにいた赤い髪の少年がドアノブに手をかけると簡単にドアは開いた。

10人はこの部屋から出た。

すると、1～10まで書かれた床がそれぞれ半径1mずつの大きさがある。

何だろう？

『皆さん、1～10までの数字の床にそれぞれ1人ずつ立ってください！！』

訳が分からなく、10人はずっと立ち尽くす。

『早くしてください！！Fグループさん！！』

慌てて、10人は移動する。

俺は3番。赤い髪の少年は2番。

ハーフっぽい彼は9番。おとなしいっぽい少年は4番。

長身で短髪の男は6番。女子5人組は、1、5、6、7、8を選んだ。

『それでは、どうぞ！！』

そう言ったその時だった。

第3話 ゲームスタート

突然パカッという音が聞こえた。

「うわあああ!!」

「ぎゃあああ!!」

「ひいひい!!!!」

突然、1、4、8の床が開き、3人は奈落の底に落ちていった。

7人は驚きで声が出なかった。

『楽しんでくれましたか? 皆さん♪』

「ざけんな!! こんな所出て行ってやる!!」

赤髪がドアノブに手をかける・・・がしかし、出られない。

「畜生!!」

赤髪がドアを蹴る。

『皆さんにはこの後も楽しい楽しいゲームをしていただきます!!
第二ステージへどうぞ!!』

奥のドアの鍵がカチャリと音を立て、ロックが解除される。

女子5人組中2人が犠牲になった3人はうなだれている。

泣き声が部屋中に響きわたる。

「行くしか・・・無いのか・・・。」

ハーフっぽい彼がそう言う。

「だろうな。」

長身で短髪が冷静に言う。

「生き残るには運次第。まさに、生死のギャンブル・・・。」

こいつの言う通りかもしれない。

向こうが何の目的かは分からないが、それだけは確かだ。

7人はゆっくりと歩いて次の部屋へ行った。

次の部屋

「なんだこれ・・・。」

短髪がそう言うのは無理も無い。

この部屋はコンクリートの床、壁、天井、だった。

窓も無い。

この部屋ではどんな事が待ち受けているのだろうか。

緒方の不安は積もるばかりだった。

第3話 ゲームスタート（後書き）

遅くなりました・・・。

最終話 破壊光線（前書き）

適当に終わらせてます。

最終話 破壊光線

すると、突然、

「死んでもらいましょう!!!」

「え？」

チュドガガガッガッガ——————ン!!!!!!!!!!!!!!

「な、なんだ？爆発していくぞ!!」

「喰らうが良い!!」

「うわあああ——!!!!!!!!!!!!!!」

「止めろ——!!!!!!!!!!!!!!」

「ど、どうなってんだ？」

俺は、ただ啞然としていた。

「次は、貴様の番だ!!」

「ギャアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア・・・。」

俺の意識が途切れた。
・
・
・
○

最終話 破壊光線（後書き）

うんこ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0994i/>

運

2010年10月10日16時46分発行